

# 令和元年度第1回南砺市総合教育会議 議事録（要点記録）

- 1 日時 令和元年9月30日（月）午前10時00分～午後0時10分
- 2 場所 南砺市役所井波庁舎3階多目的ホール
- 3 出席者
- |     |            |       |             |       |
|-----|------------|-------|-------------|-------|
| 構成員 | 南砺市長       | 田中 幹夫 | 教育長         | 松本 謙一 |
|     | 教育長職務代理者   | 江川由貴子 | 教育委員        | 林 紀孝  |
|     | 教育委員       | 水上 和夫 | 教育委員        | 竹部 俊恵 |
| 事務局 | 市長政策部長     | 上口 長博 | 教育部長        | 村上 紀道 |
|     | 教育部参事こども課長 | 武田 秀隆 | 地方創生推進課長    | 竹中 雅裕 |
|     | エコビレッジ推進課長 | 久保 剛志 | 農林課長        | 船藤 統嗣 |
|     | 教育総務課長     | 氏家 智伸 | 生涯学習スポーツ課主幹 | 池田 貴志 |
|     | スキー国体推進室長  | 水上 武司 | 教育総務課副参事    | 北島 一郎 |
|     | 教育総務課主幹    | 堀 桂子  | 教育総務課主事     | 勇崎 夏希 |
|     | 教育総務課主事    | 村上 千明 |             |       |
|     |            |       |             |       |
- 4 傍聴者 報道5社
- 5 会議の概要

## (1) 開会あいさつ（田中市長）

令和になり、初めての南砺市総合教育会議を開催しました。委員の皆さま方には日頃から、南砺市の教育行政に関すること以上に色々な意味でご指導いただいておりますことに御礼申し上げます。

近年、教育に関する様々な事件や事故が多く発生しており、教育行政においても安全安心ということが非常に重要だと改めて感じています。今年度は、第2次南砺市総合計画を始めとして、教育委員会においても第2次南砺市教育振興基本計画など重要な計画を策定する年となっています。どの計画においても南砺市の将来像を描く重要なビジョンとなりますので、同じ方向性を持ち整合性をとりながら策定作業を進めていきたいと考えています。

今回の会議では、第2次南砺市総合計画、そして第2次南砺市教育振興基本計画、第2期子ども・子育て支援事業計画、第2期南砺市食育推進計画などの各種計画に加え、7月1日に国から認定をいただいたSDGs未来都市の件、また現在準備を進めている（仮称）井口地域義務教育学校、複数担任による多学級合同指導体制の内容について、委員の皆さま方からご指導を賜りたいと思っています。これら一つ一つが地方創生の取組みとなり、南砺市に暮らす私たちが幸せを感じられるよう教育委員の皆さまと課題や進むべき方向を共有したいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。

## (2) 協議事項

### ① 第2次南砺市総合計画の将来像（ビジョン）及び行政計画（素案）について

- 市 長 現在は、この素案を以てパブリックコメントを行い、8つの地域審議会を回って色々なご意見を伺ったところになる。

○教 育 委 員 年少人口の増加を短期的目標にかかげているが、実際にはどんどん減少していくことが予想されている。5年後ぐらいはまだ大丈夫だと思うが、10年、20年後ぐらいには多くの学校が複式学級になるのではないかと予想される。現在は元々の旧町村ごとに学校があり、地域住民には通学しやすい状態となっているが、本当に人口が減少した際には、学校の統合ということに踏み込まなくてはならない場面が出てくるのではないかと。そのような場面が迫ってから方針を示すのでは遅いため、前以って南砺市としての学校の統合に関する方針や、どのような状況になったら協議を始めるかということを示しておく必要があるのではないかと。思う。

○市 長 福光南部小学校に関して、数年前に策定した公共施設再編計画に、どのような状況になったら協議を始めるかということが書かれており、現在はそれが一つのきっかけになると思っている。それ以外の学校については、平・上平小中学校、福光西部小学校の統合で1回目の再編が終わったという位置づけでいる。計画書の備考欄には、福光地域（福光南部小学校、福光中学校、吉江中学校）の学校は児童生徒数によっては将来統合を検討するということが書かれている。他の地域について何も示されていないが、南砺市総合計画に統廃合の内容を入れるということは考えていない。今後長期的に見て、子どもの人数は減っていくと思うので、学校の統廃合については逐次、資料等でお示ししながら検討するかどうかを考えていければよいと思っている。

総合計画については、色々いただいたご意見を一度まとめて、修正したものを検討会議に諮り、将来ビジョンにしていきたいと思っている。また、9月末で数値的な現状を把握したり、個々の課題や成果を確認して資料を作成するので、お示しできるものがあればお示ししたい。

## ② 第2次南砺市教育振興基本計画について

○教 育 委 員 10月から幼児教育の無償化が始まり、子育て世帯にとっては非常に良い制度が始まったと思っている。介助が必要な子どもへの援助についても、放課後デイサービスのような、障害を持った子どもを放課後一時預かりしてくれたり、障害についてケアしてくれるような施設ができてきている。南砺市ではそのような施設がいくつくらいあるのか。他自治体ではその施設の多くは、高齢者対象の類似施設が併設して運営しており、様々な形で作られ始めている。南砺市もそのようなところを充実させていただきたいと思う。

○事 務 局 南砺市には福光地域に2箇所あると聞いており、障害をお持ちの方

も利用されている。

○教 育 委 員 福光だけではなく、他の地域でもそのような施設ができればよいと思う。

○事 務 局 福祉課等、関係する担当課と連携しながら進めていきたい。

○市 長 現在福光にある施設は、具体的に言うとどこになるのか。

○事 務 局 名前についてはすぐ回答できないので、確認しておく。

○市 長 民間で整備して、運営しているところなのか。

○事 務 局 民間になる。

○市 長 このような施設の必要性は認識している。庁舎統合後の施設の整備に関して色々な提案があがっており、どのような仕組みがよいかをまちづくりの一貫として検討していただいているところもある。アンテナを高くしながら、施設の整備に向けて一緒に取り組めることがあるか調査をさせてほしい。

○教 育 委 員 17ページの参考指標に「教育のICT化に向けた環境整備の推進」とあり、電子黒板の整備率を掲げているが、学校訪問などで授業を見ているが、電子黒板を日常的に使っている授業がほとんど無い。先生が使い方に戸惑っている場面がよく見られる。使いこなせなければあまり意味が無いので、先生方が使い方を学べる機会を作っていただけたらよいと思う。

○事 務 局 電子黒板は、教育に対して非常に有効であると現場からは聞いている。教育委員さんが言われるように使われていない場面もあるので、研修なども進めていきたいと思う。

○教 育 委 員 来年度から使う教科書にはQRコードがついているものが多い。そのQRコードを読み込んで見られるデータは、一人一台タブレットが無くても電子黒板に映して皆で見ることができる。他にも家庭に教科書を持って帰って、家でスマートフォンやタブレットで予習することにも役立つと思う。教科書自体がこのように進化しているので、電子黒板等の利用もこれからもっと進めていただきたい。

○市 長 教育委員さんの言われるとおり、電子教科書を導入していない現状では、一人一台タブレットを整備するより、先生方がそのQRコードのデータをどれほど電子黒板で活用できるかということの方が重要だと思う。教育委員会から学校へしっかり知らせてほしい。

○教 育 委 員 17ページに教員の働き方改革に関する内容が記載されているが、最近では、教員に限らずどのような民間企業でも働き方改革が言われている。私自身、会社を経営している立場として、投資をしないと改善できなくなってきたところがあり、非常に苦しい中取り組んでいる。

先生方の職場環境の改善などについて、南砺市 PTA 連合会の要望書にも記載してあるが、やはり具体的に仕事量が減るとか、人が増えるということは難しいと思う。この部分については、試行錯誤したり時間のやり繰りをしたりして、取り組むことになるのではないかと。人の数にも限界があるし時間も平等に流れているので、思い切った改革ということも必要になるのではないかと感じている。

- 市 長 今年度から校務支援システムが導入され、どれだけの成果が出るかということ今年1年を通して見ている。それで時間的な余裕がどれだけ出るかということになるが、行政では RPA (ロボットによる仕事の自動化) などを導入しており、そういったものを利用しながら労働時間を抑えていかなければいけないと思う。

### ③ 第2期子ども・子育て支援事業計画について

- 市 長 最近、働き方に関する記載を目にする事が多いが、子ども・子育て支援事業計画に、保育に関わる人たちの働き方に関する内容は入れなくてもよいのか。

- 事務 局 この計画はあくまでも子どもたちを中心に記載しているので、職員に関する記載はない。ただ、やはり働き方に関しては大事な内容になるので、この計画以外のところで人材の確保や職員の待遇等しっかり考えていく必要があると思っている。

- 市 長 教育振興基本計画の中には教員の働き方改革のことが書いてあるのに、子ども・子育て支援事業計画の中には書いてないので、整合性がとれていないのではないかと。他の計画に入れるということか。

- 事務 局 具体的にどの計画に入れるということまでは考えていないが、職員の人材確保や資質向上などについても考えていきたいと思っている。

- 市 長 この計画の中に入れなければならないなら、また検討する必要がある。教育振興基本計画も子ども・子育て支援事業計画も、南砺市の子どものために南砺市で働きたいと思えるところをアピールすることが大事だと思った。職員の人材確保が大変なところだからこそ、それに関する内容の記載についても少し検討してほしい。

- 事務 局 どのように入れたらよいか検討していきたい。

- 教育 委員 子育ての中には、自分のことを自分でできるようになるまで手をかけてやる時期、夢や目標に向かって頑張る姿を応援してやる時期、あとは希望する進学先に進み就職するまでお金をかけてやる時期があると思う。南砺市の教育振興基本計画や子ども・子育て支援事業計画には、義務教育までの手厚い施策は示してあるが、義務教育後の子育てに関する記載はなく、どこに相談すればよいかも分からない状況に

なっている。年齢的にこども課の対象ではないし、義務教育でもない  
ので、担当が曖昧になっており、はっきりした部分が示せないことも  
理解できるが、実際に困っている人が自分のまわりにいる。子どもの  
同級生の中に、高校から不登校になり、退学して引きこもりになった  
とか、大学で学校に馴染めず、休学して引きこもりになった子もいる。  
親は相談をするために遠くの市まで行ったり、子どもを連れて相談に  
行ったりしているため仕事もままならず、鬱病になれば命の危険が伴  
うので、かなり精神的にも追い込まれていると聞いた。8050問題  
のように80歳になっても子育てをしなければならないような社会  
になりつつあるのに、そのような引きこもりに対する相談窓口が現在  
の南砺市にはない。子どもが社会的に自立できない要因は様々であり、  
担当部署が分かりづらく、窓口から窓口へ取り次ぐだけが精一杯  
のように感じる。義務教育期間中には、不登校の子どもに対しての手  
厚い教育は行っているが、そのあとに手放した子どもたちの未来は南  
砺市としてどのように保証するのか。今回の総合計画の見直しのタイ  
ミングで新しい部署を設置して、子どもたちがちゃんと自立できるよ  
うに支援してあげられるところがあればよいと思う。

○事 務 局 国では子ども・若者育成支援推進法が施行されており、各部署で  
できる限りの対応はしているが、教育委員さんがご指摘されるように連  
絡や連携という点では不十分であったかもしれない。一つの部署だけ  
で対応できない問題があるため、どのような組織がよいのか、総合的  
な対応について考えていくことが重要だという認識は持っている。

○市 長 先日、明橋先生（南砺市政策参与）に、8050問題などをどう解  
決していくか、申請主義の行政ではなかなか難しい問題にどう取り組  
んでいくかということが課題だと話した。明橋先生からは、「幼少期  
に関わるのが大事だ」と言われ、幼少期から青年期までの間にある  
程度相談できるような関係性を築いておくことが大事とのことであ  
った。大人になってからでは問題がより複雑になるので、幼少期から  
きちんと解決できるように、行政として何ができるかを考えることが  
大事になる。青年期以降の世代については、教育委員さんが言われる  
ように、実際にはたくさん窓口があって分かりにくく、どこへ相談す  
ればよいかというのが個人の判断になってしまっている。青年期から  
はプライバシーの保護と、行政においてどのような窓口であればワン  
ストップできるかということを検討していかなければならない。この  
問題はとても重要なことだと思う。現状と将来のあるべき姿を検討す  
る中で、市としてどういうことができるか、県とどのような連携が必

要かということを含めていけたらよい。

○教 育 委 員 第2次教育振興基本計画の29ページ②には、保育士等の人材確保に関する内容について、「保育士・看護師等の人材を確保するとともに」としか書いていない。資質向上についてはかなり細かく書いてあるが、それに比べて人材確保に関する内容はかなり薄い。前回の教育委員会でも発言したので、この部分についてはもっと膨らませていただけるものと思っている。教育は色々な世代において大切なことであるが、特に幼児教育は全ての根幹を成す部分になるため、重要だと思う。南砺市では非認知能力の育成を取り入れており、それも子育て支援と子育て支援の両面からアプローチする構成になっている。そのためには、もっと保護者に非認知能力について理解してもらえるような働きかけが必要ではないか。まだまだ認知能力を以て判断される世の中であるが、誰かと比べて優位に立ちたいというために教育が利用されるだけでは人は育たないということだと思う。第2次教育振興基本計画の30ページ(2)に祖父母や父親に対する内容が書いてあるが、そもそも家庭と学校、教育機関が連携していくものだという意識が今の保護者に有るのか。私としては、この非認知能力はとても重要であり、役割が異なる教育機関と家庭の連携が最も重要だと思う。それが101ページの2に文言として書いてあった。「子育て支援関係者だけが～協働して」とあり、「協働」という言葉が入っている。「協働」ということがもっと具体的に計画の中で進んでいけばより良くなると思う。さらに101ページや102ページの図を膨らませていけば、南砺市の幼児教育、あるいは教育全般がまさに三者によって子どもを支えているという姿が見えてくるのではないかと思う。

○教 育 委 員 義務教育卒業後の子育てに関する相談場所がないという話だが、私が県の総合教育センターの相談部にいたとき、県の総合教育センターの相談部も対象年齢が18歳までだった。対象年齢が決まっているため、高校を卒業した子どもや保護者が相談に来た場合には、県の心の健康センターなどの大人の窓口へ案内せざるを得ないという状況だった。引きこもりとまではいかないが、私の近所にもお勤めをされていない成人年齢の方がいる家庭がある。南砺市でそのような相談機関を作ればよいという話があったが、プライバシーの問題があって、相談には来ないような気がする。行政がプライバシーの問題であまり関わらなかったところを掘り起こすのではなく、相談会を開いたり相談会の情報を流すことで、親や家族を引き出したり、話の場に参加していただいたりする機会を作っていくべきだと思う。どこの部署が担当

するかという大変難しい問題になると思うが、これは全国的な課題でもあるので、検討をお願いしたい。

○市

長 非認知能力に関しては、家庭における取り組みが大事で、そのアプローチを計画の中にどう明記するかというところを考える必要がある。地域・家庭・学校という当たり前の言葉を並べるだけではイメージしづらいので、その先の目指すべき形を具体的に計画の中に入れていくことが必要ではないか。認知能力と非認知能力のどちらが良いかということではなく、その両方を皆が理解して子どもたちの子育てに向き合うことが一番大事だと思う。通知票や試験の点数で判断する親もいるが、本来はそうではなく、もっと細かな分析を見て「この子にはこんな良いところがある」ということを認め、それを理解し合う社会になってほしい。本日いただいたご意見をもう一回膨らませていくように確認をお願いしたい。それと相談場所について、教育委員さんの言われたことが非常に悩みで、8050問題のような方々のフォローやケアを行政が取り組んでもおそらく誰も来ない。行政側としても実績がなく、手探りで取り組まなければならないため難しい。そのため実際のところ、窓口へ来たら誰かを紹介するしかできない状況だと思う。NPOの団体やそのようなことに協力できる人たちの中でネットワークができてくると思うが、隣近所にいる社会的に自立できない子どもたちや、子育てに悩む方々への地域包括ケアみたいなものを地域で考えていくべきだと思っている。家の中で仕事をしている人もいて、引きこもりかどうかを判断するのは本当に難しいが、全国の地方でもかなり多くみられる課題の一つになっている。県には様々な窓口があるが、それだけではフォローされていないというのが現状だと思うので、どのような問題があるかを明確にし、市・県・国にどんな窓口があるか整理して、次回以降にもう一度議論したい。

#### ④ SDGs 未来都市への選定とSDGs 普及啓発における今後の学校教育での取組について

○教 育 委 員 SDGsについては、南山田地区の地域づくり協議会で課長さんのご講演をお聞きした。そのときにも発言したが、メディア等で話題になった事で、取り組みについては市民として認識していると思う。しかし、どちらかという市民より外への発信が多い気がする。未来都市に選定され、南砺市の良いところを外へ発信するのはよいが、やはり市民の皆さんにSDGsに取り組むことで生活が充実することや、将来に向けて明るいビジョンを描けることを知っていただく必要があると思う。そのためには、南山田地区の地域づくり協議会で行ったよ

うに、市民の皆さんの理解のために色々な場所で時間を作って周知徹底されることを提案する。

○市 長 説明は各地域審議会、町内会でできるだけ回数を増やし、理解していただけるようにしたい。説明の機会を作っていきたい。

⑤ (仮称) 井口地域義務教育学校について

保・小・中一貫、複数担任による多学級合同指導体制について

○教 育 委 員 井口地域の義務教育学校について、特認校として市内から募集するということが、通学要件の中に登下校については保護者の責任になると書いてある。例えば、通学と下校の時間に公共のバスはあるのか、ないのであれば時間帯を考慮するようなことがあるのか。応募があるかどうか分からないが、やはり保護者としては入学した場合に、通学手段はどうするか気になるところだと思う。実際に募集する際に、スクールバスはあるのかというような問い合わせがくると思うので、募集要件の中に説明しておくとお親切だと思う。

○市 長 教育委員さんの言われる通りだと思う。例えば利賀から井口に通うような子どもたちにとっては公共交通はなかなか難しいが、城端・井波地域であれば公共交通の見直しのタイミングの時に、そういったことを配慮できるかどうか担当へ確認したい。

○教 育 委 員 井口地域ではやはり「井口」というところを残したいという気持ちがあると思うが、「南砺市の」義務教育学校であるということが大事になると思う。資料6は今回のためだけの資料かもしれないが、「井口地域の特色を活かした教育」の部分、「井口地域の特色を活かした南砺市ならではの教育」とするなど、「南砺市ならでは」や「南砺市全体の」というところ強調した方がよい。目的をはっきりさせておくことで、学校名をどうするかといった今後の段階も進めやすくなるのではないかと思う。教育目標は資料6に記載してあるものですでに決定しているのか、もう変えることはないのか。「ふるさとを愛し、世界に羽ばたく子どもの育成」とあるが、羽ばたいてしまったら帰ってこなくなるのではないか。羽ばたくとか巣立ちと表現するともう帰ってこないようなイメージをもつので、「ふるさとを愛し、世界と地域を結ぶ子どもの育成」といった表現にしてみたらどうかと思う。第2次南砺市総合計画にある「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」という点と、「南砺市ならでは」という点との整合性をとるなら、「南砺市にまた住みたいと思う教育」を展開するということになるのではないか。南砺市の土徳文化をベースに、認知能力と非認知能力の両方を育てていくということを分かりやすく説明していけ



ば、南砺市としての願いや、南砺市ならではの教育というものが見えてくるのではないかと思った。

○市 長 「ふるさと」というのは井口地域ではなく南砺市のことを指すということや、教育目標が決まるとすれば少しニュアンスを変えたサブ目標がつけられないかということを検討していただきたい。南砺の特色を活かした南砺の義務教育学校という位置づけにするためにはどのような形にすればよいか、もう少し皆さまの知恵をお借りしたい。

○教 育 委 員 「保・小・中一貫、複数教員による多学級合同指導体制」について、音楽や図工など2学年で目標が示されている教科では、異なる学年と合同で授業をしてもよいということは分かるが、教科書についてはどのように支給されるのか。例えば1年生の時に2年生の分までいただけるのか、それとも1年生は1年生の教科書を、2年生は2年生の教科書をいただくのか。それぞれの学年の人数分が国から支給されると思うが、そうすると1年生の時に2年生の内容を学ぼうとしたら、2年生の教科書がないということにならないか。目標が2学年で示されている教科には何があるか一般の保護者とか市民の方は分からないと思うので、実際にどの教科が週何時間あるのかを示した方が分かりやすいと思う。その中で全てを2学年合同で行うわけではなく、時数が多い教科で1学年で目標が示されているものは、それぞれの学年できちんと授業をするということを明示する。この体制は来年から始まるということだが、施設的な面や人数的な面で全ての学校で一斉に取り入れるわけではなく、それぞれ学校の状況に合わせて取り入れていくということをおこなうかならないと思う。それぞれの学校の校長先生などの裁量で実施してもらおうよう示していただきたい。

○教 育 長 教科書については、2年生のものを1年生の時にもらうことはできない。だから、最初の1年目では2年生の内容を扱うときに色々工夫しなくてはならないと思っている。教科書の扱いについては、全ての授業を教科書で扱わなければならないという決まりはなく、法律的に問題がないことは既に確認してある。各教科の時数については、明示するようにしたい。運用については、教育委員さんをご指摘されたとおり、各学校の実態に合わせてできるところから運用してほしい。ただ、せっかくこのような体制を作るのだから、先生方の残業が減らせるように目一杯工夫してほしい。それぞれ今年度から校長先生方を中心に、どこまでできるか準備をしてもらっているところである。

○教 育 委 員 この体制は全国的にも誰も考えつかなかったことだと思う。現在、

多くの学校で子どもの人数が減少しており、10～20人のような学級も増えている。このような形で一緒に学べる子どもたちが増えたり、教員の勤務について改善されたりするなら、効果を出せるようにぜひ先生方にも頑張ってください。今後、子どもたちのために良い制度として定着していくことを期待している。

○市 長 これから進めるにあたり、保護者や地域の方々への理解をいただくことも重要だし、それぞれの学校の先生方にもご苦勞をいただかなければならないので、本日いただいたご意見を参考にしっかり説明していきたい。

○教 育 委 員 色々な場所で多くの方に説明されたと思うが、現在一番心配していることはなにか。

○教 育 長 新しいことに皆でチャレンジしていこうという機運をいかに高めていくかということが今年の1番の課題だと思っている。

○市 長 これだけ働き方改革と言われ、様々な取組みがなされている中でも、これは画期的な発想だと思っている。これを本当に理解していただき、皆で取り組むところまで進めていくことが課題だと思う。後々、先生方の中から、校長先生はこう言われるが、私は本当はこう思っているというような意見が出てくる。それらの意見を皆でどう前向きに進めていくかということを重視していきたいと思う。多様性を認め合う南砺市にしていきたいので、私と教育長だけで引っ張っていくのではなく、皆で色々な方向の意見を取り入れながら何ができるかということを確認して説明して、進めていくべきだと思っている。ぜひ教育委員の皆さま方にもご指導をいただければありがたい。

○教 育 委 員 先日、南砺市PTA連合会の理事会の前に教育長さんにこの体制についてご説明をしていただいた。その中でもいくつか素朴な質問をされたと思うが、PTA関係で学校教育に熱心な方でも1回説明を聞いただけでは理解ができない部分がある。色々検討してこのような方向で進めていくのだということをPTAを通してお知らせするのもよいと思うが、どこかのタイミングできちんと各保護者の方に理解をいただけるような説明が必要だと思う。ぜひお願いしたい。

○市 長 まずは教育長が先頭に立ってご説明し、校長先生や先生、保護者の方々との色々な話し合いをしていただき、その中に教育委員会も入りながら進めていければよいと思う。

○教 育 委 員 おそらくPTA関係からすれば、先生の負担が少しでも減るのであればぜひ進めてほしいと考えていると思う。むしろ協力できることがあれば言ってほしい。

○市 長 今まで、それぞれPTAの方々、校長会、教育委員会の中で煮つめてきたものを初めてこの会議の場でお示しして、皆さま方からも貴重なご意見をいただいた。総じて今最も大事な計画、もしくは方向性であるので、皆さま方からのご意見を参考にさせていただき、しっかり進めていきたいと思う。

## ⑥ 意見交換

○事務 局 教育委員の皆さまから、引きこもりのことについて大変貴重なご意見をいただいた。その中で一つ補足させていただきたいことがある。南砺市教育委員会では、「にこにこ相談会」という相談会を年に18回開催している。砺波市、小矢部市、南砺市の3市で共同開催しており、その相談会の相談対象は乳幼児から成人までとなっている。ただ、これまでの相談者の中で最も年齢が高いのは高校生であり、今後この相談会についてももう少しPRし、社会的に自立できない子どもや引きこもりの方にも利用していただけるように対応していきたいと考えている。

○市 長 おそらく県にも市にも同様の部分があり、知り合いがいるかもしれない身近な窓口にはなかなか行くことができない方もおられると思うので、広報についてもご検討いただければよいと思う。

○教育委員 学校ではどちらかというと認知的なスキルを高める傾向があり、非認知能力は幼児教育・家庭教育の中で育てるというイメージが強いが、南砺市では学校教育の中でも非認知能力を育てていくということを意識してほしい。

○市 長 多様性を認め合う社会になることが大事だが、そのような社会にするために集団で何を学ぶか、試験結果だけではなく教育として何を育て、何を成果として判断するかが難しく、分かりにくい点であると思う。先日、教育センターが主催された平田オリザさんの講演に、コミュニケーション能力の話があり、教育の中にコミュニケーション能力を向上させるような色々な取組みが今後考えられると思う。その根本として、非認知能力を意識しながら、認め合う、考える場面を作るということを教育の中に入れていければよいと思っている。ぜひ皆さんにご理解をいただきたい。今、南砺市を含めた5市町村で文化と教育の先端自治体のようなものを作り上げて、勉強会をしようという取組みを掲げている。家庭の経済的な格差というのはすごく大きなものだと思うが、勉強の意欲や他者を認めながら自分が向上するための力というのは、ここから生まれてくるような気がしている。非認知能力という言葉は、幼児期にかかってくるものだというイメージがあると思

うが、少し年代を上げていくこともこれから大事なのではないかと思う。

○教 育 委 員 長 福野高校では高校再編に向けた工事が始まっていて、新しい高校に向けて準備を進めていることを感じるが、再編する福光高校の今後の跡地活用についてはまだ全体の話が出ていないように感じている。現時点で何か分かっている話があれば、教えていただきたい。

○市 長 まちの中にある高校の閉校に際しては、今までまちの中に必要だったものをそこに入れるという議論があればよいとは思っている。南砺市は庁舎統合に向けてまちづくりを考えてきたが、その時点では今の松村謙三記念館や福社会館周辺の開発の議論が前提にあった。その後、昨年になって福光高校の跡地利用という話が出てきたため、どのように進めていくかという議論は改めてスタートしたところになる。他の市町村と比べると遅れ気味なのかもしれないが、当時の市民会議では、図書館と駅と福社会館周辺のトライアングルゾーンでまちづくりを考えようと言っていた。福光高校を含めた議論はつい先日改めてスタートを切ったところになる。

○教 育 委 員 長 私も平田オリザ先生の講演を聞いた。非認知能力の重要性についてもお話されていて、そういう力を身につけるといふ特色も井口地域の義務教育学校に盛り入れて PR したら応募がくるのではないかと考えた。

○市 長 私は最近、非認知能力というのは何歳までが大事なのかということが分からなくなってきたいて、もう少し幅広く考えられるのではないかと感じてきている。やはり認知能力の点数だけではないというところが少しずつ日本の教育界に広がってきているので、どのように南砺市の教育として進めていくかが非常に重要だと思う。井口地域義務教育学校、または他の小中一貫校のところでも、きちんとできるように考えていかなければならない。もう少し子どもたちが地域の方々と交流できるような時間を作ることも今後の課題だと感じている。

#### (4) 閉会あいさつ (松本教育長)

貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日の会議は、市当局と教育委員会がひとつになって、これからどのように進めていくかという方向性を考える大事な時間だったように思います。本日いただいたご意見を参考に、きちんと実施できる方向に向けて教育委員会一丸となって、市が一丸となってより一層邁進していきたいと思っております。どうもありがとうございました。